
【JEC-ET】 020104

One More Paragraph!

- J E C の脈絡における福音主義神学的思索のひとつ -

作成日：2002年4月27日(土)

こんにちは、関西聖書学院「福音主義神学」教師、一宮基督教研究所の安黒務です。J E C の源流と歴史的遺産をさぐるために、今週は宇田進先生の「福音主義キリスト教と福音派」の「第二章 福音派の源流と歴史的遺産：第一項目 重要な三つの要素」のテキストから四回目の学びをいたしましょう。

【テキスト】

第二に、歴史的要素に目をとめなければならない。一口に福音派と言っても、その中には種々色合いの違った多くの流れが存在している。実はそれら一つ一つの流れの背後には、みな特定の歴史的運動が介在している。

【解説】

J E C の流れの背後に存在してきた「特定の歴史的運動」のマクロ的な描写は J E C 50 周年記念誌に小論文のかたちで掲載させていただきましたので、その一部分を下記に引用させていただきます。

J E C 50 周年記念誌：「特定の歴史的運動」のマクロ的な描写

「まず J E C のルーツについて、歴史的におおまかにさかのぼっていくことにしましょう。J E C のマザー・ミッションは、スウェーデン・オレプロ・ミッション（現在は三教派合同により“インターアクト”）です。スウェーデン・オレプロ・ミッションは、スウェーデン・バプテスト系諸教会を基盤としています。スウェーデン・バプテスト教会のルーツは英国の宗教改革でありますピューリタン運動の流れにあります。ピューリタン運動は16世紀のルターやカルヴァンの宗教改革の流れの中のひとつにあたります。宗教改革は、ある意味で古代の正統教理を継承する運動であります。そして古代の正統教理は、初代教会の信仰に根差しており、イエス・キリストの死・葬り・復活の事実と使徒たちの証言を基盤にしています。」

J E C 50 周年記念誌の続編として

今回の J E C ニュースに連載の小論と電子メール講義による記事は、J E C 50 周年記念誌に掲載させていただきました小論文をさらに詳述していく続編とお考えください。J E C の源流と歴史的遺産についての学びは、我喜屋師が J E C の50年間を視野におおまかな輪郭を描かれることがあったぐらいで、教会史2000年を視野に教理的・歴史的・社会的文化的な立体的な掘り下げられることはなかったと思います。私の原稿は先輩の先生方の示唆を材料にしつつ、試論的なかたちでまとめているものです。皆様の J E C 研究の一助とさせていただいたら感謝です。来月は、「使徒的キリスト教と J E C 」について詳述してみたいと思います。
